

ふるさと財団「地域再生マネージャー」情報

1. 基本情報

組織名・所属	本田屋本店有限公司				
役職	代表取締役社長				
氏名	本田 勝之助	ふりがな	ほんだ かつのすけ	生年	1974年
連絡先	住所	〒965-0016 福島県会津若松市中島2-52			
	電話	0242-25-1778	携帯電話		メールアドレス honda■katsunosuke.jp (■を@に変えて下さい)

2. 経歴・取組内容、取組分野等

主な経歴・受賞歴	<p><経歴> 本田屋本店有限公司 代表取締役 文化庁：日本遺産統括プロデューサー 内閣府：クールジャパン地域プロデューサー 早稲田大学政治経済学部卒業。 2004年(有)会津食のルネッサンス創業(地域の食と農業のプロデュース業)現：本田屋本店。 2006年(株)ヒルサイドコネクション創業(日本伝統産業の新規事業立ち上げ、コンサルティング)。 2011年 NewsWeek “日本を救う中小企業100” に選ばれる。 2014年 会津地域スマートシティ推進協議会事務局長 2018年 一般社団法人スマートシティ会津 専務理事 2020年 一般社団法人dialogue 専務理事 (ジャパンワーケーションアカデミー) 2020年 クールジャパンマッチングアワード特別賞(青森県下北ジオガストロノミー・ツーリズム)</p>					
	主な取組内容、実績等	<p>東日本大震災直後、福島県へのアクセント社の誘致と以降のスマートシティ推進化を経済産業省・総務省・国内外の大手企業やベンチャーと協業しつつ、その代表企業として推進している。 全国の原発立地地域約20地域、83地域以上の日本遺産認定地域の統括プロデューサーとして担当プロデューサーやクリエイター、コンサルタントなどをプロジェクトチームとしてまとめ事業推進している。</p> <p>《地域経営実績》 2003年 日本経営品質協議会 審査員(当時エグゼクティブとしては世界最年少) 2006年 会津若松市経営品質賞 自社(当時会長)が大賞受賞 2007～11年 学校経営品質の専門家として、文部科学省学校経営第三者評価モデル実証(2年間)</p> <p>《商品開発実績》 2006年 純米吟醸酒 雷神光 (榮川酒造とのコラボレーション) 会津継承米 氏郷 の商品開発 (海外展開も) 2010年 緋の衣・国光・紅玉 レトロ3兄弟のジュース開発 他多数</p> <p>《飲食店・レストラン・ホテルプロデュース、立ち上げ、運営実績》 2004年 おにぎり店、郡山「雷神光」プロデュース立ち上げ運営(5年間) 2007年 東京ミッドタウン 米処 雷神光 プロデュース 2008年 東山温泉 くつろぎ宿 メインダイニングレストランのプロデュース 2010年 裏磐梯ホテル ホテルリアルト プロデュース</p> <p>《地域コミュニティ創造・運営実績》 2005年 会津スローフードの会事務局長 (生産者・加工会社・飲食店・地域テレビ局新聞社のコミュニティ) 2008年 緋の衣ブランド化推進実行委員会 委員長 (生産農家・加工会社等のコミュニティで商品開発やツアー企画、連携活動を行う) 2013年 会津若松市スマートシティ推進協議会 事務局長</p> <p>《他地域の地域ブランド都市ブランド立ち上げ実績》 2012年 三重県全県の食品・クラフト産品開発支援とアンテナショップコンセプトメイク。 2013年～原発立地地域約20地域(北海道～鹿児島まで)全体プロデューサー(ブランディング、商品開発、観光振興、まちづくりなどを手掛ける。 2013年～広島県福山市「都市ブランド戦略全体のコンサルティング」、新潟県上越市「メイドイン上越コンサルティング及び審査員長」 2016年～文化庁 日本遺産の統括プロデューサーとして約83地域の文化財を保存活用した観光振興事業のアドバイス等を実施。 2016年～経済産業省 全体プロデューサーとして ふくしま12地域6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業</p>				
取組分野		◎	1	観光振興	○	7
	○	2	産業振興	○	8	イベント交流
	○	3	過疎地域・限界集落の振興	◎	9	食品流通
	○	4	中心市街地活性化	○	10	環境
		5	まちづくり景観		11	NPO・ボランティア
	◎	6	農林水産品の開発・ブランド化	○	12	その他(SmartCity,Society5.0)

3. 関連ホームページ

名称	アドレス
本田屋本店	hondaya.jp
一般社団法人dialogue	dialogue.social

4. ふるさと財団での実績	
外部活用 専門家	<ul style="list-style-type: none"> ◆2020年度 福島県磐梯町 会津磐梯山は宝の山よ、「トレジャーハント磐梯」事業 ◆2018年度 福井県高浜町 「観光×移住×次世代によるクリエイティブビーチ創出プロジェクト」 ◆2015年度 福井県高浜町 「「6次産業振興型 城山ライフスタイル」魅力向上プロジェクト」 ◆2015年度 山形県長井市 「ながいシティプロモーション推進事業」 ◆2014年度 新潟県十日町市 「地域商社新商品開発プロジェクト事業」 ◆2013年度 新潟県上越市 「北陸新幹線開業に向けた特産品開発支援事業」
外部短期 専門家 派遣	<ul style="list-style-type: none"> ◆2020年度 栃木県下野市 ◆2019年度 山形県白鷹町
地域 セミナー	
その他 ほか	◆2013年度スタートアップ派遣 新潟県十日町市

5. 財団報告書	
名称	アドレス
令和2年度 新・地域再生マネージャー事業	https://www.furusato-zaidan.or.jp/wp-content/uploads/2017/03/R2houkokusyo.pdf
令和元年度 新・地域再生マネージャー事業	https://www.furusato-zaidan.or.jp/wp-content/uploads/2017/03/R1chiikisaiseihoukoku.pdf
平成27年度 新・地域再生マネージャー事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/H27iigyohoukokusyo.pdf
平成26年度 新・地域再生マネージャー事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/H26iigyohoukokusyo.pdf
平成25年度 新・地域再生マネージャー事業	http://www.furusato-zaidan.or.jp/H25ichiikisaisei-iigyohoukokusyo.pdf

6. 写真・ひとことPR	
	<p><ひとことPR></p> <p>地域の課題は、様々な分野をまたぐ連携をもって取り組まなければ解決できないものが増えている。地域ブランドも、地域内の生活領域にある食や医療、福祉、ICT含め生活に根差したところから創造され続ける仕組みにしなければ一過性のものに終わってしまう。</p> <p>取り扱う領域の広さとその相互の戦略連携を「ブランド」という外部価値視点で構築推進することが今や自分にオファーされる地域要望の殆どを占めてきている。</p> <p>また、昨今のスマートシティー（Society5.0）は、地域の持続可能な成長モデルに活かせる仕組みに出来るとその相談やコンサルティング業務が増えている。</p> <p>地域改題の解決と共に、日本における地域の先進モデルを作り続けるプロフェッショナルとしてこの世界の第一線を走り続けたいと思っています。</p>